# 令和 7 年度　年間授業計画　教科 芸術　科目 音楽Ⅰ

教　科：芸術　　科　目：音楽Ⅰ　　単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年

| 教科担当者： | 1組 | 佐竹 | 2組 | 佐竹 | 3組 | 佐竹 | 4組 | 佐竹 | 5組 | 佐竹 | 6組 | 佐竹 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書： | 音楽Ⅰ　Tutti+(教育出版) | | | | | | | | | | | |

教科　芸術　の目標：

| | |
|---|---|
| 【知識及び技能】 | 表現及び鑑賞の活動を通して得た知識を応用しながら理解を深め、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。」 |
| 【思考力、判断力、表現力等】 | 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。 |
| 【学びに向かう力、人間性等】 | 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。 |

科目　音楽Ⅰ　の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---|---|---|
| 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 | 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 | 主体的・協力的に活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 表現 歌 | 表現 器 | 表現 創 | 鑑賞 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当時数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1学期 | 単元 1 クラスの歌声を響かせよう | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | ○ | | | ○ | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | ○ | ○ | ○ | 6 |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | | 【知識・技能】 | | | | |
| | 歌詞を明瞭にするための方法を理解し、実践する。 | 正しい姿勢、発声、発音、記号 | | | | | 正しい姿勢を作り、目的に応じた発声や発音を理解し、意識的に変えることができている。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | | 【思考・判断・表現】 | | | | |
| | 歌詞の内容を理解し、どのような表現が適切か考え、楽譜上の記号もふまえた演奏をする。 | 教科書等 | | | | | 自らの考えを明確に持ち、伝える表現方法を工夫することができる。 | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | | 【主体的に学習に取り組む態度】 | | | | |
| | 他者の意見や演奏を聞き、より良い表現ができるようにする。 | 意見交換など | | | | | 様々な意見や表現方法を積極的に見聞きし、取り組むことができる。 | | | | |
| | 単元 2 イタリアの民謡や歌曲 | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | ○ | | | ○ | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | ○ | ○ | ○ | 4 |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | | 【知識・技能】 | | | | |
| | イタリア語の読み方を理解し、日本語の発音と区別する。 | イタリア語の発音、読み方 | | | | | イタリア語と日本語の発音の違いを区別して恥ずかしがらずに表現しようとしている。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | | 【思考・判断・表現】 | | | | |
| | イタリア語特有のリズム感や響きを味わい、また、曲調に応じた表現をする。 | 教科書等 | | | | | 日本語の歌との違いを理解し、区別して表現を変えることができる。 | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | | 【主体的に学習に取り組む態度】 | | | | |
| | ２人以上の歌唱を聴き比べ、より良い表現ができるようにする。 | 聴き比べ | | | | | 聴き比べを通じて、分析を行い、新たな発見を具体的にまとめ、なおかつそれを生かしている。 | | | | |
| | 定期考査（第１学期中間考査）/返却と解説 | | | | | | | | | | |
| | 単元 3 楽典 | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | ○ | ○ | ○ | | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | ○ | ○ | ○ | 16 |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | | 【知識・技能】 | | | | |
| | 音楽理論の基礎を身に付ける。 | 音名、音階、調、リズム、創作等 | | | | | 年間を通して学習し、自力で楽譜を読むことができる。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | | 【思考・判断・表現】 | | | | |
| | 音楽理論の知識を曲の理解、表現へ繋げる。 | 教科書等 | | | | | 楽譜通りに正しく演奏し、「調」を意識した表現ができる。 | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | | 【主体的に学習に取り組む態度】 | | | | |
| | 読譜力を強化し、積極的に演奏に取り組めるようにする。 | | | | | | 自力で読譜しようとしている。 | | | | |
| | 単元 4 フランスの歌に親しもう | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | ○ | | | ○ | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | ○ | ○ | ○ | 2 |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | | 【知識・技能】 | | | | |
| | フランス語の読み方を理解し、日本語やイタリア語の発音と区別する。 | フランス語の発音、読み方 | | | | | フランス語と既習言語の発音の違いを区別して恥ずかしがらずに表現しようとしている。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | | 【思考・判断・表現】 | | | | |
| | フランス語特有のリズム感や響きを味わい、また、曲調に応じた表現をする。 | 教科書等 | | | | | 既習言語の歌との違いを理解し、区別して表現を変えることができる。 | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | | 【主体的に学習に取り組む態度】 | | | | |
| | 日、伊、仏語の歌唱学習を通じて、それぞれの国の違いを理解し、他国への興味と自国の理解を深める。 | 聴き比べ | | | | | 世界に視野を広げつつも、改めて日本に目を向け、自信を持てるものを見つける。 | | | | |
| | 定期考査（第１学期期末考査）/返却と解説 | | | | | | | | | | |

東京都立多摩科学技術高等学校

# 令和 7 年度　年間授業計画　教科 芸術　科目 音楽Ⅰ

教　科：芸術　科　目：音楽Ⅰ　単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年

| 教科担当者： | 1組 | 佐竹 | 2組 | 佐竹 | 3組 | 佐竹 | 4組 | 佐竹 | 5組 | 佐竹 | 6組 | 佐竹 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書： | 音楽Ⅰ　Tutti+(教育出版) | | | | | | | | | | | |

教科　芸術　の目標：

| | |
|---|---|
| 【知識及び技能】 | 表現及び鑑賞の活動を通して得た知識を応用しながら理解を深め、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。」 |
| 【思考力、判断力、表現力等】 | 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。 |
| 【学びに向かう力、人間性等】 | 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。 |

科目　音楽Ⅰ　の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---|---|---|
| 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 | 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 | 主体的・協力的に活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 表現 歌 | 表現 器 | 表現 創 | 鑑賞 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当時数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2学期 | 単元 5 ギターの演奏を楽しもう | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | ○ | ○ | ○ | 4 |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | | 【知識・技能】 | | | | |
| | ギターの基本的な奏法とタブ譜を理解し、演奏する。 | ギターの構造、奏法、タブ譜の読み方 | | | | | 習熟度に応じた課題曲(独奏、二重奏)を演奏する。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | | 【思考・判断・表現】 | | | | |
| | 曲に応じた表現を考え、演奏する。 | 教科書等 | | | | | 曲を仕上げるための工夫をしている。 | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | | 【主体的に学習に取り組む態度】 | | | | |
| | 協調しながら技術の習得をし、他者との関わりを通して自己の発展へとつなげる。 | 聴き比べ | | | | | 生徒同士で教えあい、協調しながらより良い演奏になるよう工夫している。 | | | | |
| | 単元 6 アンサンブルを深めよう | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | ○ | ○ | ○ | 10 |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | | 【知識・技能】 | | | | |
| | ハンドベルなどの基本的な奏法を理解し、演奏する。 | ハンドベル等の奏法 | | | | | きれいな音色にするための奏法を映像や活動から習得している。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | | 【思考・判断・表現】 | | | | |
| | アンサンブルならではの課題を考え、人数、曲想に応じた演奏をする。 | プリント | | | | | 課題解決に向けた考えを持ち、実行することができる。 | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | | 【主体的に学習に取り組む態度】 | | | | |
| | 独奏、重奏、合奏を通じ、それぞれの良さを味わうとともに、協調性を培う。 | 鑑賞 | | | | | アンサンブルを成功させる工夫をしている。 | | | | |
| | 定期考査（第２学期中間考査）/返却と解説 | | | | | | | | | | |
| | 単元 7 音楽史 | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | ○ | ○ | | ○ | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | ○ | ○ | ○ | 14 |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | | 【知識・技能】 | | | | |
| | 時代ごとの音楽の特徴を理解し、鑑賞や演奏する。 | 歴史的背景、鑑賞、曲の形式等 | | | | | 時代ごとの音楽の特徴を理解し、鑑賞や演奏をすることができる。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | | 【思考・判断・表現】 | | | | |
| | 音楽と時代の密接な関係を考え、それらを自分の言葉でまとめたり表現する。 | 教科書等 | | | | | 考えを自分の言葉でまとめることができる。 | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | | 【主体的に学習に取り組む態度】 | | | | |
| | 音楽史を通じて、他分野にも及ぶ知識や教養を身に付け、学びの楽しさを得る。 | 鑑賞 | | | | | 教科という枠に捉われずに学ぶ姿勢がある。 | | | | |
| | 単元 8 ドイツ歌曲の魅力 | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | ○ | ○ | | ○ | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | ○ | ○ | ○ | 4 |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | | 【知識・技能】 | | | | |
| | ドイツ語の読み方を理解し、既習言語の発音と区別する。 | ドイツ語の発音、読み方 | | | | | ドイツ語と既習言語の発音の違いを区別して恥ずかしがらずに表現しようとしている。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | | 【思考・判断・表現】 | | | | |
| | ドイツ語特有のリズム感や響きを味わい、また、曲調に応じた表現をする。 | 教科書等 | | | | | 既習言語の歌との違いを理解し、区別して表現を変えることができる。 | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | | 【主体的に学習に取り組む態度】 | | | | |
| | 既習言語の歌唱学習や音楽史の学習と関連づけ国際社会における問題にも関心を持つようにする。 | 聴き比べ | | | | | 偏見を持たずに世界を見て、意見を発表したりまとめたりすることができる。 | | | | |
| | 定期考査（第２学期期末考査）/返却と解説 | | | | | | | | | | |

東京都立多摩科学技術高等学校

# 令和 7 年度　年間授業計画　教科 芸術　科目 音楽Ⅰ

教　科：芸術　　科　目：音楽Ⅰ　　単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年

| 教科担当者： | 1組 | 佐竹 | 2組 | 佐竹 | 3組 | 佐竹 | 4組 | 佐竹 | 5組 | 佐竹 | 6組 | 佐竹 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書： | 音楽Ⅰ　Tutti+(教育出版) | | | | | | | | | | | |

教科　芸術　の目標：

| | |
|---|---|
| 【知識及び技能】 | 表現及び鑑賞の活動を通して得た知識を応用しながら理解を深め、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。」 |
| 【思考力、判断力、表現力等】 | 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。 |
| 【学びに向かう力、人間性等】 | 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。 |

科目　音楽Ⅰ　の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|---|---|---|
| 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 | 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 | 主体的・協力的に活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。 |

| | 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 表現 歌 | 表現 器 | 表現 創 | 鑑賞 | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配当時数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3学期 | 単　元 9　私たちの郷土の音楽 | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | ○ | | | ○ | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | ○ | ○ | ○ | 4 |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | | 【知識・技能】 | | | | |
| | 日本の伝統芸能と音楽の関わりを理解し、鑑賞や演奏する。 | 日本の伝統芸能、国歌、日本の音階等 | | | | | 日本の音楽の特徴を捉えた鑑賞をしたり、背景や意味を理解しながら演奏する。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | | 【思考・判断・表現】 | | | | |
| | 他国との違いの理由を様々な要因から考える。 | 教科書等 | | | | | 考えを自分の言葉でまとめることができる。 | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | | 【主体的に学習に取り組む態度】 | | | | |
| | 広い視野で日本の伝統芸能や国歌を改めて考えることで、国際社会における日本人としての自覚を培う。 | 鑑賞 | | | | | 日本の伝統芸能や、世界の国歌にも興味を持って調べたり、進んで鑑賞している。 | | | | |
| | 単　元 10　よく聴き合って合唱・合奏しよう | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | ○ | ○ | | ○ | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | ○ | ○ | ○ | 6 |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | | 【知識・技能】 | | | | |
| | １年間の学習したことを理解し、すべて実践する。 | 総合 | | | | | 楽譜通りに演奏し、響きに注意をし、イメージを表現しようとしている。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | | 【思考・判断・表現】 | | | | |
| | 曲の理解を共有し、適切な表現を判断する。 | 教科書等 | | | | | 考えを共有し、適切な表現方法を工夫することができる。 | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | | 【主体的に学習に取り組む態度】 | | | | |
| | 集団における自己の役割を自覚するとともに、他者への思いやりももつ。 | 意見交換など | | | | | 全員が納得できる方法を考えて行動している。 | | | | |
| | 単　元 11　作曲してみよう | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | | ○ | ○ | ○ | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | ○ | ○ | ○ | 4 |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | | 【知識・技能】 | | | | |
| | １年間の学習してきたリズムを使って作曲する。 | 音符の知識 | | | | | 音符の知識が習得できている。 | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | | 【思考・判断・表現】 | | | | |
| | 自作することで、読譜力・表現力の向上へ繋げる。 | 教科書等 | | | | | 条件に応じたものを作ることができる。 | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | | 【主体的に学習に取り組む態度】 | | | | |
| | 楽譜から作者の考えを理解しようとする。 | | | | | | 楽譜をきちんと読み、理解することができる。 | | | | |
| | 単　元 12 | 指導項目に対し、次の教材等を活用する。 | | | | | 次の観点別評価規準に従い評価する。 | | | | |
| | 【知識及び技能】 | ・指導事項 | | | | | 【知識・技能】 | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | 【思考力、判断力、表現力】 | ・教材 | | | | | 【思考・判断・表現】 | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | 【学びに向かう力、人間性等】 | ・一人１台端末の活用（場面） | | | | | 【主体的に学習に取り組む態度】 | | | | |
| | | | | | | | | | | | |
| | 定期考査（学年末考査）/返却と解説 | | | | | | | | | | |